

栃木県におけるスモン検診受診者数増加の試み

森田 光哉 (自治医科大学 内科学講座神経内科学部門/附属病院 リハビリテーションセンター)

研究要旨

栃木県でのスモン検診受診者数を増やすことを目的に、往診およびかかりつけ医での検診代行を試みた。かかりつけ医での検診を希望した3名を含めた5名の現況について把握することができたが、今後はかかりつけ医との情報共有を通じてスモン検診を実施していくことが必要と思われる。

A. 研究目的

栃木県でのスモン検診受診者は毎年2-3名と少なく、受診日を増やすなどの改善を試みたが受診者数の増加にはつながらなかった。昨年度はスモン検診の認識および今後の改善点を探るためのアンケートを実施し、受診を促すためには医療機関が自由に選択できるようにすること、往診の希望、休日の受診希望などがだされた。そこで今年度は、往診やかかりつけ医での検診を実施して受診者数の増加を目的とした。

B. 研究方法

対象は、栃木県在住のスモン患者7名。

栃木県でのスモン検診は、期日を設定した受診日に自治医科大学附属病院へ来院の上実施していた。今回は、スモン検診の案内時に往診による検診の希望、かかりつけ医での検診代行の可否について問い合わせしたうえで実施した。

(倫理面への配慮)

個人情報 は 厳重 に 管理 さ れ て お り 、 問 題 な い と 考 え る。

C. 研究結果

栃木県のスモン検診受診者数の推移を表に示す。

7名中2名が来院にて検診を受けることを希望した。往診での検診を希望した方はなく、3名がかかりつけ医から情報提供を受けることに同意いただいた。検診の希望がなかった2名は90歳代の超高齢者であった。

かかりつけ医から、患者受診時にスモン現状調査個人票に記載いただき返送してもらった。

D. 考察

かかりつけ医からの情報提供に同意いただいた3名のADLを検討すると、いずれも転倒歴があり、移動しないし社会生活にて何らかの問題を抱えていることが推測され、高齢化や転倒の危険のため検診を受けることが困難となってきたことがうかがえる。

診療科は、神経内科および内科(訪問診療)、消化器内科(大学病院所属)であり、スモン病に関しては専門外であるかかりつけ医もみられた。

E. 結論

スモン患者はもともとのADL不良に加え、高齢化、転倒の危険などのため、検診受診が困難となってきたことが推測される。現況を把握するうえで、かかりつけ医との連携は必須であり、また専門外であることも考慮して、いつでも相談を受けられる体制を整えることが重要と考える。

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

I. 文献

なし

表 栃木県におけるスモン検診受信者の推移

	H23	H24	H25	H26	H27	H28
対象患者数	12	11	9	9	9	7
受診者数	3	3	2	2	2	5